

マタイの福音書 第9章 9節

「イエスは、そこを去って道を通りながら、取税所にすわっているマタイという人をご覧になって、『わたしについて来なさい』と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。」

このみことばを人々は2000年ものあいだ聞き続けてきた。人生の旅にある人々には消え難いいのちの言葉であり続けている。それだけに聞き過ごすことのできないイエスの呼びかけである。ましてや、今を懸命に旅している者にとってはかけがえのない御声として胸に響く。さらに、人生の途上で抱える重荷、直面している苦難にあってはいのち綱ともいえる呼びかけである。路上で日々の営みをするマタイにイエスは眼差しを注ぎ、近づき、声をかけてくださった。

マタイの人生もごたぶんにもれず重荷をかかえ、苦難に直面し、それでもなお路上での営みを続けていたはずである。取税人の役割を懸命に務め、自分の安心を獲得しようと励んでいたはずである。その彼に、イエスは別の道を生きましようと呼び掛ける。懸命に生きようとしている者、生きている者に、路上で初めて出会う通りすがりのイエスに未知の旅への誘いである。それに直ぐついてゆくのか、といえはまるで無理なことだ。ところがマタイは呼びかけられてすぐに立ち上がり、ついていったではなく、従ったとある。呼んでくださったイエスに信頼し従う。

2023年7月18日